

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	千葉経済大学
設置者名	学校法人千葉経済学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部等 共通 科目	専門 科目	合計		
経済	経済	夜・通信	114	114	34	148	13	
	経営	夜・通信			28	142	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページ https://www.cku.ac.jp/univ/information.html#anchor02 (2. 修学上の情報等 (3) 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画 (シラバス又は年間授業計画の概要)
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	千葉経済大学
設置者名	学校法人千葉経済学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

事業報告書 <https://gakuen.cku.ac.jp/zaimu/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	(株)千葉銀行 特別顧問	R3.6.1 ～R7.5.31	予算・決算・事業計画・ 事業報告・借入金等の 議決に関すること
非常勤	(株)京葉銀行 相談役	R3.4.1 ～R7.3.31	〃
非常勤	(一財)自治研修協会 理事長	R3.6.1 ～R7.5.31	〃
非常勤	(株)桜ゴルフ 代表取締役社長	R3.6.1 ～R7.5.31	〃
非常勤	前職：(財)全国危険物安 全協会理事	R3.6.1 ～R7.5.31	〃
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	千葉経済大学
設置者名	学校法人千葉経済学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) すべての開講授業科目について、シラバスを作成し、ホームページで公表している。シラバスの記載事項については、授業方法(形態)、授業内容と計画、到達目標、履修にあたっての準備(予習・復習)、及び成績評価方法と基準等を示すとともに、実務経験のある教員による授業科目であることも明示している。 シラバスの作成過程は、次年度の開講科目がある程度決定する12月頃に教務部会でシラバスに記載すべき項目の選定を行い、シラバス記載にあたっての注意事項を記載した書類をすべての教員に配付している。その指示に従い登録されたシラバスの内容について、教務部教員がカリキュラムポリシーやディプロマポリシーに鑑み、適切な内容となっているか、また、記載事項の不備や整合性に問題がないか等を確認している。修正する必要がある科目や内容については、各担当教員に修正依頼を行い、教務部会で最終稿を確認し、公表している。	
授業計画書の公表方法	ホームページで公表 https://syllabus.cku.ac.jp/SyllabusGaku/default.asp?cdga=1
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) すべての開講授業科目について、シラバス上で成績評価基準を定めており、学生に周知している。成績評価基準については、担当教員の判断によるが、事前に教務部会で精査を行うため、誤解を招くような表現やカリキュラムポリシー及びディプロマポリシーに鑑み、不適切と判断されるものについては修正を求め、明確な成績評価基準に整えている。 各授業科目の担当教員は、シラバスの成績評価基準に従い、成績評価を行っているが、厳格な成績評価を担保するため、前期及び後期それぞれ該当するすべての授業科目の成績評価結果を教務部会及び教授会で公表している。また、学生に対しては、成績通知後に成績問合せ期間を一定期間設け、シラバスに記載された成績評価基準から逸脱した場合や、公正な成績評価がされていないと思った場合は、担当教員に問合せを行うことができる制度を設け、厳格な成績評価が実行されるようにしている。	

3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 成績評価においては、G P Aを設定し、相対的な基準を定め、厳格に運用している。G Pの内訳及び評価割合としては、90点以上:4(15%以内)、80点以上:3(G P4と合わせて累積40%以内)、70点以上:2(G P4と3を合わせて累積80%以内)、60点以上:1(G P4、3、2と合わせて累積60~100%)、59点以下:0(G P4、3、2、1と合わせて累積100%)としている。学生に対しては、学生ハンドブック、または、ホームページでG P Aの評価割合を公表している。なお、G P Aの算出方法は、単位数にG Pを乗じた数値の和を総履修単位数で除したものであるとしている。 厳格な成績評価を担保するため、前期及び後期それぞれ該当するすべての授業科目の成績評価結果を教務部会及び教授会で公表している。教務部会では、相対的な基準から逸脱した授業科目を確認し、担当教員へ基準から逸脱した理由を書面で提出してもらい、逸脱した理由が妥当であるかどうかを確認している。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	学生ハンドブック及びホームページで公表 https://www.cku.ac.jp/univ/information.html ※「修学上の情報等」の「(3)授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画」参照
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)を定め、ホームページでの公表及び学生ハンドブックで学生に周知を図っている。具体的な内容としては、①経済学・経営学に関する知識や技能と幅広い教養を身につけ、学際的視野を備えていること、②良識及び思考力・判断力・表現力・積極性などの人間力・社会人基礎力を身につけていること、③他人に共感できる感性をもち、社会と積極的に関わる高いコミュニケーション能力を身につけていることを骨子とし、教養科目や専門科目を適切に配当するとともに卒業認定するための具体的な修得単位を設け、卒業認定を厳格に行っている。なお、卒業認定に係る具体的な修得単位については、教養科目から40単位以上、専門科目から50単位以上、ゼミナール科目から16単位以上を含み、合計124単位以上修得することとしている。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	ホームページで公表及び学生ハンドブックで周知 https://www.cku.ac.jp/department/policy.html

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	千葉経済大学
設置者名	学校法人千葉経済学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://gakuen.cku.ac.jp/zaimu/
収支計算書又は損益計算書	https://gakuen.cku.ac.jp/zaimu/
財産目録	https://gakuen.cku.ac.jp/zaimu/
事業報告書	https://gakuen.cku.ac.jp/zaimu/
監事による監査報告(書)	https://gakuen.cku.ac.jp/zaimu/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:	対象年度:	)
公表方法:		
中長期計画(名称:	対象年度:	)
公表方法:		

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: ホームページ https://www.cku.ac.jp/univ/ninsyouhyoka.html
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 経済学部
教育研究上の目的（公表方法：ホームページ https://www.cku.ac.jp/univ/information.html） ※「1. 教育研究上の基礎的な情報」の「(1) 学部、学科、課程、研究科、専攻ごとの名称及び研究上の目的」参照
(概要) 1 経済学科においては、経済学の分野における専門的な教育・研究を行うとともに、当該分野の専門的知識に加えて良識及び理解力・想像力・表現力・積極性などの社会人基礎力を具え、他人に共感することのできる感性と高い倫理意識を身につけた人材を養成するものとする。 2 経営学科においては、経営学の分野における専門的な教育・研究を行うとともに、当該分野の専門的知識に加えて良識及び理解力・想像力・表現力・積極性などの社会人基礎力を具え、他人に共感することのできる感性と高い倫理意識を身につけた人材を養成するものとする。 3 経済学科及び経営学科においては、前二項の目的を達成するため、教職員と学生間並びに学生相互間の密接な交流と連携が図られ得るきめ細やかな少人数教育を行うとともに、入学時から一貫したキャリア教育・資格取得支援教育に取り組むものとする。あわせて、地域の生涯学習の拠点として貢献できるよう、多面的に努力し配慮するものとする。
卒業の認定に関する方針 （公表方法：ホームページ https://www.cku.ac.jp/department/policy.html）
(概要) 千葉経済大学の教育理念・教育目標に沿って設定した履修すべき科目と単位を修得することにより、以下のような本学の学修目標を達成した学生に学士の学位〔経済学科：学士(経済学)、経営学科：学士(経営学)〕を授与します。 <学修目標> 1. 経済学、経営学に関する専門知識や技能のみならず、幅広く深い教養を身につけ学際的視野を備えていること。（知識、技能） 2. 良識及び思考力・判断力・表現力・積極性などの人間力・社会人基礎力を十分身につけていること。（思考力、判断力、表現力等） 3. 他人に共感できる感性をもち、社会と積極的に関わっていく高いコミュニケーション能力を身につけていること。（主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度） <履修すべき科目と単位> 1. 「考える力」を支え育む基盤となり、経済学や経営学について専門的に学んでいくための基本的な知識としても必要となる教養科目群か 40 単位以上を修得していること。（思考力、判断力、表現力等） 2. 経済学・経営学に関する専門的な知識や技能を修得するために設置されている専門科目群から 50 単位（うち必修科目 12 単位）以上を修得していること。 <経済学科> 経済学科では、経済の基礎知識から経済学の理論やその応用あるいは歴史等の専門的内容までを体系的に学び、経済全体に生じる問題を発見する力及びその問題の解決方法を考える力を身につけることを目標としています。このため、経済学科では、「経済学入門Ⅰ」「経済学入門Ⅱ」「経営学入門Ⅰ」「経営学入門Ⅱ」「初級ミクロ経済学」「初級マクロ経済学」の 6 科目 12 単位を必修科目として履修し、単位

を修得すること。 ＜経営学科＞ 経営学科では、企業を中心にさまざまな組織体の活動について体系的に学び、直面している問題を発見する方法やその解決方法について考える力を身につけることを目標としています。このため、経営学科では、「経営学入門Ⅰ」「経営学入門Ⅱ」「経済学入門Ⅰ」「経済学入門Ⅱ」「マネジメント概論」「アカウンティング概論」の6科目12単位を必修科目として履修し、単位を修得すること。（知識、技能） 3. 表現力やコミュニケーション能力の育成とともに、大学生としての基礎的な知識と基本的な学習能力の習得を目指し、1年次より必修科目として設置されているゼミナール科目16単位を修得していること。（知識、技能）（思考力、判断力、表現力等）（主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度） 4. 上記1から3の授業科目を履修し、必修科目のすべての単位を修得したうえで、合計124単位以上の単位を修得していること。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：ホームページ https://www.cku.ac.jp/department/policy.html）
（概要） 千葉経済大学では、経済学科と経営学科を設置し、本学の教育理念に基づき専門的な知識のみならず広い視野と高い倫理意識を身につけた人材を育成することを教育目標とし、以下のような方針で教育課程を編成しています。なお、各授業科目の内容や到達目標についてはシラバス等により明示するとともに、授業方法についてはFD活動（授業評価等）を通じ点検・評価しています。また、成績については授業科目ごとに設けられた評価方法に基づき厳正に評価しています。 1. 少人数教育の根幹としてのゼミナールの重視（クラス制） 教員1人当たりの学生数が少ないという、大規模大学にはない本学の条件を積極的に生かして、可能な限り教員とのマン・ツウ・マンの教育場面が確保できる少人数教育を実施します。 その根幹として「ゼミナール」を位置づけ、表現能力やコミュニケーション能力の育成とともに、大学生としての基礎的な知識と基本的な学習能力の習得を目指します。また、ゼミナール担当教員がクラス担任を兼ね、学生一人ひとりの学修・生活・進路についてきめ細かく指導します。1年次に「基礎ゼミナール」を設けるほか、専門知識や文書作成・報告能力の習得のため、2年次から4年次まで「専門ゼミナール」を必修科目として設置します。さらに、より高度な知識を獲得しようと考えている学生に対して、3年次、及び4年次に選択科目として「特別ゼミナール」を設置します。（知識、技能）（思考力、判断力、表現力等）（主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度） 2. 体系的な科目の設置 学生に自らの適性や将来の志望をよりの確に判断してもらうため、1年次には学科に分かれず、全ての1年次生が経済学や経営学双方に関する基本的な考え方や分析方法を学ぶための科目を設置します。 2年次からは専門的な知識や技能と専門的な分析・思考方法を体系的に学ぶことができるように、専門科目を多数設置します。ただし、所属学科・専攻分野を超えて幅広く自由に興味のある科目を履修させ、学際的な視点を育成することを奨励します。 ＜経済学科＞ 経済学科では、経済の基礎知識から経済学の理論やその応用あるいは歴史等の専門的内容まで体系的に学びます。専門科目群は、これらの内容を含む「経済分野」を構成し、この分野の専門科目を学ぶことで、経済全体に生じる問題を発見する力及びその問題の解決方法を考える力を育成します。

＜経営学科＞

経営学科では、企業を中心にさまざまな組織体の活動について、体系的に学びます。専門科目群は、「経営分野」と「会計分野」に大別し、「経営分野」では自らの活動を効率的かつ効果的に遂行するための問題発見とその解決力といった実践的能力を育成し、「会計分野」では企業の経営活動を表現し、伝達する手段である簿記・会計と税務能力を育成します。（知識、技能）

3. キャリア教育の充実（コース制）

社会参加と就業への意識を高め、育成していくためのキャリア科目を、1 年次から 3 年次まで段階的に履修できるように設置しています。また教養科目・専門科目については、各人の目指す職業と関連づけて学習できるようにキャリア別コース（公務員コース、会計コース、ビジネス経営コース、金融コース、教職コース、学芸員コース、IT コース）を設定し、コースごとのカリキュラムツリーも示しています。（主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）

4. 人間教育の根幹をなす教養教育の充実

経済・経営をより深く、多角的に理解するための幅広い教養を身につけ、社会の変化に対応しつつ、問題を解決できる行動力を備え、社会に貢献する人材を育成できるように、多様な教養科目を設置し、学生自身の選択の幅を広げます。また、建学の精神に関わる渋沢栄一の考え方を深めるための科目を設置します。（思考力、判断力、表現力等）

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：ホームページ <https://www.cku.ac.jp/department/policy.html>）

（概要）

＜使命＞

千葉経済大学は、「片手に論語 片手に算盤」という建学の精神を踏まえた校是（「良識と創意」）を教育理念とし、専門的な知識のみならず広い視野と高い倫理意識を身につけた人材を育成することを教育目標として、社会の発展に寄与することを使命としています。

＜教育目標＞

1. 経済学、経営学に関する専門知識や技能のみならず、幅広く深い教養を身につけ学際的視野を備えた人材を育成します。（知識、技能）
2. 良識及び思考力・判断力・表現力・積極性などの人間力・社会人基礎力を十分身につけた人材を育成します。（思考力、判断力、表現力等）
3. 他人に共感できる感性をもち、社会と積極的に関わっていく高いコミュニケーション能力を身につけた人材を育成します。（主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）

＜求める学生像＞

この教育理念と教育目標に照らして本学が求める学生像は次の通りです。

1. 経済や経営に関する幅広い知識・洞察力、また関連する技能を修得したいという意欲がある人
2. 良識及び思考力・判断力・表現力・積極性などの人間力・社会人基礎力を身につけようとする意欲がある人
3. 他人に共感できる感性を身につけコミュニケーション能力を高め、社会と積極的に関わっていく意欲がある人

＜高校時代に身につけておくことが望ましいこと＞

千葉経済大学で学ぶ基礎として、高校で学んだ科目等を通して次のような知識や能力をしっかり身につけておくことを望みます。

1. 国語：文章の読解力と自分自身の考えを適切に表現できる文章力を身につけておくこと
2. 数学：基礎的な数式やグラフを理解し、数学の基礎的な考え方を身につけておくこと
3. 英語：コミュニケーションツールとしての基礎的な英語力を身につけておくこと
4. 公民、地理歴史または商業：社会の仕組みと変化に関する基礎的な知識を身につけておくこと
5. 社会と積極的に関わっていく姿勢を身につけておくこと

1～4（知識、技能）（思考力、判断力、表現力等）、 5（主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）

＜入試＞

上記のことを踏まえ、さまざまな能力や目的を持った志願者に対応して、以下のような複数の入学者選抜を行います。

1. 一般選抜入試は、筆記試験で基礎学力を確認し、出願書類（調査書・志望理由書・高校の活動記録）・面接(複合型のみ)により多面的・総合的に評価します。
2. 学校推薦型選抜入試（附属高校）は、附属高校の学校長からの推薦を得られる者が対象となります。面接試験の中で志望動機及び入学後の勉学意欲、コミュニケーション能力を高めていこうとする意欲を確認した上で、出願書類（調査書・志望理由書・高校の活動記録）と面接（口頭試問含む）により多面的・総合的に評価します。
3. 学校推薦型選抜入試（指定校）は、本学が指定校として指定している高等学校の学校長からの推薦を得られる者が対象となります。面接試験の中で志望動機及び入学後の勉学意欲、コミュニケーション能力を高めていこうとする意欲を確認した上で、出願書類（調査書・志望理由書・高校の活動記録）と面接（口頭試問含む）により多面的・総合的に評価します。
4. 学校推薦型選抜入試（公募制）は、学校長、学級担任、クラブ顧問のいずれかの推薦を得られる者が対象となります。面接試験の中で志望動機及び入学後の勉学意欲、コミュニケーション能力を高めていこうとする意欲を確認した上で、出願書類（調査書・志望理由書・高校の活動記録）と面接（口頭試問含む）により多面的・総合的に評価します。
5. 学校推薦型選抜入試（商業科特別）は、商業関係科または総合学科の出身者で、学校長、学級担任、クラブ顧問のいずれかの推薦を得られる者が対象となります。科目試験として、商業科目（簿記）を課し、簿記の基礎的知識を確認します。また、面接試験の中で志望動機及び入学後の勉学意欲、コミュニケーション能力を高めていこうとする意欲を確認した上で、出願書類（調査書・志望理由書・高校の活動記録）、筆記試験および面接（口頭試問含む）により多面的・総合的に評価します。
6. 総合型選抜入試は、本学のアドミッションポリシーを十分に理解し、本学を第一希望とする者が対象となります。出願時に提出される課題により、思考力・判断力・表現力などの人間力・社会人基礎力を身につけようとする意欲を確認します。また、面接試験の中で志望動機及び入学後の勉学意欲、コミュニケーション能力を高めていこうとする意欲を確認した上で、出願書類（調査書・志望理由書・高校の活動記録・事前課題）と面接により多面的・総合的に評価します。
7. 社会人入試は、入学年度の4月1日現在、満23歳以上の者が対象となります。試験科目として、小論文試験と面接試験を課し、小論文により思考力・判断力・表現力などの人間力・社会人基礎力を身につけようとする意欲を確認します。また、面接試験の中で勉学意欲やコミュニケーション能力を高めていこうとする意欲を確認した上で、出願書類、小論文および面接により総合的に評価します。

8. 帰国子女入試は、日本国籍を有する者および日本国の永住許可を得ている者で、保護者の海外勤務に伴って外国に居住し、外国における正規の学校教育に2年以上継続（最終学年を含む）して在籍し、入学前の年度末までに18歳に達している者が対象となります。試験科目として、日本語による作文試験と面接試験を課し、作文により思考力・判断力・表現力などの人間力・社会人基礎力を身につけようとする意欲を確認します。また、面接試験の中で勉学意欲やコミュニケーション能力を高めていこうとする意欲を確認した上で、出願書類、作文および面接により総合的に評価します。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：ホームページ <https://www.cku.ac.jp/departement/faculty/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手その他	計
－	0 人	－					人
経済学部	－	19 人	9 人	7 人	人	人	35 人
	－	人	人	人	人	人	人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
1 人		68 人					68 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：ホームページ https://www.cku.ac.jp/department/staff/					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
経済学部	250 人	308 人	123.2%	1,000 人	1,233 人	123.3%	若干名	7 人
	人	人	%	人	人	%	人	人
合計	250 人	308 人	123.2%	1,000 人	1,233 人	123.3%	若干名	7 人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
経済学部	235 人 (100%)	0 人 (0.0%)	190 人 (80.9%)	45 人 (19.1%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	235 人 (100%)	0 人 (0.0%)	190 人 (80.9%)	45 人 (19.1%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
すべての開講授業科目について、シラバス上で成績評価基準を定めており、学生に周知している。成績評価基準については、担当教員の判断によるが、事前に教務部会で精査を行うため、誤解を招くような表現やカリキュラムポリシー及びディプロマポリシーに鑑み、不適切と判断されるものについては修正を求め、明確な成績評価基準に整えている。
各授業科目の担当教員は、シラバスの成績評価基準に従い、成績評価を行っているが、厳格な成績評価を担保するため、前期及び後期それぞれ該当するすべての授業科目の成績評価結果を教務部会及び教授会で公表している。また、学生に対しては、成績通知後に成績問合せ期間を一定期間設け、シラバスに記載された成績評価基準から逸脱した場合や、公正な成績評価がされていないと思った場合は、担当教員に問合せを行うことができる制度を設け、厳格な成績評価が実行されるようにしている。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

すべての開講授業科目について、シラバス上で成績評価基準を定めており、学生に周知している。成績評価基準については、担当教員の判断によるが、事前に教務部会で精査を行うため、誤解を招くような表現やカリキュラムポリシー及びディプロマポリシーに鑑み、不適切と判断されるものについては修正を求め、明確な成績評価基準に整えている。

各授業科目の担当教員は、シラバスの成績評価基準に従い、成績評価を行っているが、厳格な成績評価を担保するため、前期及び後期それぞれ該当するすべての授業科目の成績評価結果を教務部会及び教授会で公表している。また、学生に対しては、成績通知後に成績問合せ期間を一定期間設け、シラバスに記載された成績評価基準から逸脱した場合や、公正な成績評価がされていないと思った場合は、担当教員に問合せを行うことができる制度を設け、厳格な成績評価が実行されるようにしている。

学部名	学科名	卒業に必要な 単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
経済	経済	124 単位	有・無	単位
	経営	124 単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
G P Aの活用状況 (任意記載事項)		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：ホームページ <https://www.cku.ac.jp/campuslife/facilities/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
経済		710,000 円	210,000 円	287,000 円	令和 2 年度以降入学
		670,000 円		274,000 円	平成 31 年度以前入学

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) ・クラス制 ゼミナール（ゼミ）をベースとした学年別クラス制を導入しています。 ゼミ担当教員がクラス担任を兼ね、クラスの学生一人ひとりの学修・生活・進路状況についてきめ細かく指導します。（HPより転記） ・キャリア別コース制 本学は、各自が方向性（進路）を決める段階において、現在の学修と将来の職業とのつながりが見えるキャリア別の 7 つのコースを設置しています。人間力・社会人基礎力も含めたそれぞれの就職分野に必要な「真の学力」を身につけられる、それが「千葉経済大学のコース制」です。（HPより転記）
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 少人数教育の利点を活かし、個別指導に重点を置き、適性や希望により職業紹介及び進路や就職に関する相談に対応しています。 また、以下のような実践的な『オリジナルプログラム』を実施し、進路選択に係る支援を行っています。 ①WEB面接実践トレーニング オンライン就活に対応するため「Zoom」を使って WEB で面接練習を行っています。 ②企業訪問バスツアー 様々な業種の企業へ訪問し、そこで得られる新しい発見や気づきをその後の就活活動に活かせるプログラムとなっています。 ③夏季就活塾 就職活動に必要な準備事項を実践形式で練習し、現状や課題を明らかにすることで、今後の対策に取り組むことを目的に実施します。 ④親子就活スタートアップセミナー 保護者の方にも就職活動の実態を理解してもらい、早期から就職活動の準備を促すことが目的となっています。 ⑤キャリアサポーターのゼミ派遣 就職活動を乗り越えた先輩（キャリアサポーター）から下級生が実体験に基づくアドバイスを聞くことで、その後の学生生活や就職活動を円滑に不安なく送れるよう支援しています。 ⑥『就活力』ステップアップ Week 採用市場の現状を現実的に認識することを狙いとし、自身の現状や課題を明らかにします。

⑦リクルートメイク講座 女子学生向けに、普段のメイクとは違う就活メイクをビューティーアドバイザーから直接、教授してもらいます。 ⑧業界研究セミナー 就職活動を控えた３年次生が、幅広い業界の知識が得られるよう、本学と交流の深い企業・団体の採用担当者を招き、セミナーを開催します。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) ・ カウンセリングセンター 専門の資格をもったカウンセラーが、あなたの話にじっくりと耳を傾けます。そして一緒に考えながら、学生生活が有意義で充実したものになるようサポートしていきます。個人の秘密は厳守されますので、安心して気軽に足を運んでみてください。（ＨＰより転記） ・ 学生相談室 学生生活の中で、進路のこと、対人関係、時には自分自身について等いろいろと悩みはあることでしょう。ひとりでこうした悩みを考えることは人の成長に大切な場合もあります。でも、もしひとりで抱えきれないほどの悩みになっていたり、誰かに話を聞いてもらいたいときには、無理せず、学生相談室に来てください。カウンセラーがお話を聞きます。（ＨＰより転記）

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：ホームページ <https://www.cku.ac.jp/univ/information.html>

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F112310102501
学校名	千葉経済大学
設置者名	学校法人千葉経済学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		143人	139人	－
内 訳	第Ⅰ区分	83人	83人	
	第Ⅱ区分	37人	43人	
	第Ⅲ区分	23人	13人	
家計急変による支援対象者（年間）				－
合計（年間）				149人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（1）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

（2）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	—		
修得単位数が標準単位数の5割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下）	—		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	—		
「警告」の区分に連続して該当	—		
計	11人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（2）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期		後半期

（3）退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	0人		
GPA等が下位4分の1	25人		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	—		
計	28人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。